

日サ協発第 23050002 号  
2023 年 5 月 18 日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から 2023 年 3 月 23 日付回状第 27 号をもって 2023/24 サッカー競技規則の改正を含む、第 137 回 IFAB 年次総会における決定について通達されました。

通達自体の日本語訳(概略)は、下記のとおりです。今回の改正の多くは、現在の規則をより明確にするために文章が追加されたものになっています。特に、昨年、IFAB より通達(回状 26 号:2022 年 7 月)されたオフサイドにおける「意図的なプレー」と「ディフレクション」の違いについてのガイドラインが、今回の改正で競技規則に書き加えられたことは注目すべき点です。これまでどおり、サッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員はこれらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたく、お願い申し上げます。

IFAB からの回状に添付されている「2023/24 年競技規則一概要と詳細」の日本語訳は添付 1 のとおりです。各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

これらの改正等は、国際的には 2023 年 7 月 1 日から有効となっています。日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、添付 2 のとおり適用されます。なお、今回の競技規則の主な改正についての説明用映像を本協会のホームページに 6 月初旬 までに掲載する予定です。

## 記

### 第 137 回 国際サッカー評議会年次総会の決定について

2023 年 3 月 4 日、ロンドンにおいて、国際サッカー評議会(IFAB)第 137 回年次総会が、The FA(イングランド・サッカー協会)のデビー・ヒューイット会長が議長になり開催された。年次総会における主たる決定および議論については、次のとおりである。

#### **1. 2023/24 サッカー競技規則**

年次総会において様々な変更や明確化が承認されたが、文章そのものは、前述のとおり、添付の「2023/24 サッカー競技規則の変更」に示している。

2023/24 サッカー競技規則は、2023 年 7 月 1 日から有効になる。7 月 1 日より前にシーズンを開幕する競技会は、これらの変更を事前に適用することも、遅らせて次シーズンの開幕以降に適用させることも可能である。

公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷 3-10-15) JFA ハウス  
Tel.050-2018-1990 Fax.03-3830-2005  
www.jfa.jp

## 主な競技規則の変更

### 第 10 条 - 試合結果の決定

「ペナルティーマークからのキック」の表現を「PK 戦（ペナルティーシュートアウト）」に置き換える。

### 第 11 条 - オフサイド

2022 年 7 月 27 日付け IFAB 回状第 26 号で概説した「意図的なプレー」と「ディフレクション」の違いに関するガイドラインが、競技規則上書き加えられる。このガイドラインは、守備側競技者が動いてボールに触れたならば、明らかにオフサイドポジションいたとしてもオフサイドで罰せられないという判断が、守備側競技者が動いてボールに触れるすべてのケースに当てはめられる訳ではないという考え方に基づいたものである。

### 第 12 条 - ファウルと不正行為

守備側チームの競技者がボールに向かうことで相手競技者にチャレンジしたこと（相手を押さえる、引っ張る、押す、または、ボールにプレーする可能性のないチャレンジなどを除く）で反則になり、主審がペナルティーキックを与えた場合でも、ボールをプレーしようと試みて反則した競技者と同じように一段階下がる懲戒の罰則が与えられることを明確にした。つまり、反則で相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止した場合は警告なし（YC なし）で、DOGSO の場合は警告（YC）となる。

### 第 14 条 - ペナルティーキック

ゴールキーパーは、キックを遅らせたり、ゴールポスト、クロスバーまたはゴールネットに触れるなどして、キッカーを不正に惑わせるような動きをしてはならない。

### その他の変更および明確化

2023/24 年競技規則への挿入が承認されたその他の変更および明確化の詳細については、前述の [http://theifab.com/downloads/lotg\\_changes\\_23\\_24\\_en](http://theifab.com/downloads/lotg_changes_23_24_en) で説明されている。

## 2. 「サッカーのルール - わかりやすい競技規則」

IFAB は、わかりやすい競技規則を作成した。これは、公式の競技規則に比べ、より平易な言葉を使用し、より単純な構造からなっている。この競技規則をやさしく説明した新たな要約版は「サッカーのルール」という名称で、特に若者、新たに資格を取得した、また取得を考える審判員、時々審判する大人、選手、指導者（指導者資格取得に向けて取り組んでいる人を含む）、観客、メディアにとって、競技規則が容易に理解できるよう作成されたものである。詳細については、<https://www.footballrules.com> にアクセスしていただきたい。ここから、アルファベット順、また、カテゴリー別に整理された「わかりやすい競技規則」のダウンロードも可能である。

## 3. VAR の進展

年次総会出席者は、（主審とビデオアシスタントレフリー（VAR）間の会話を含む）審判員間の会話を「ライブ」で放送することも、または公開することも認められないことを確認した。

しかしながら、会話を録音し、後日教育や情報提供の目的で使用することは可能である。

一方、年次総会出席者は、前回の年次ビジネス会議(ABM)において、VAR が関わった特定の判定があった後、主審がそれについて外にアナウンスするというトライアルの実施を認める決定を行ったと説明を受けた。トライアルは、まずは FIFA が主催する国際競技会に限られるが、モロッコで開催される FIFA クラブワールドカップ 2023™で成功が確認されたので、FIFA として引き続き今年の多くの FIFA 競技会において最良の実施方法を模索し、その後、より世界的にこれがどのように機能するかどうかの検証を積むためのトライアルを実施することになる。

選手がカメラやマイクを着用することは引き続き禁止されるが、審判員については、IFAB が承認したトライアルの一環であればカメラを着用することができる。

VAR「ライト」のトライアルは順調であるが、2023/24 競技規則では VAR「ライト」では事実上リプレーオペレーターを用いることはないのので、これを反映して、VAR 実施手順を更新変更した。世界中の試合で VAR を利用できるようにするため、より簡易なレベルのビデオレビューシステムが紹介された。

その他、活用可能な技術開発について議論された他、VAR の導入がこの 6 年間成功したことから、これから改善必要なエリアがあるかどうかを特定するため、ステークホルダーと共に VAR プロトコルをレビューする適切な時期であることが合意された。

#### **4. 脳振盪/頭部の負傷**

年次総会出席者は、(再出場なしの)脳振盪による交代のトライアルについて、最新情報の説明を受けた(<https://www.theifab.com/laws/latest/concussion-substitutes/> を参照のこと)。

脳震盪による交代の有効性を評価するにはより多くのデータが必要であるため、時間制限を課すことなくトライアルを継続することが合意された。なお、脳振盪による交代(再出場あり)については、現段階では実施しないものの、引き続き検討していくことが合意された。

The FA(イングランドサッカー協会)が、既に練習試合やトレーニングでヘディングが禁止または制限されている 12 歳以下の競技者が参加する競技会でヘディングを禁止するという IFAB の承認を受け実施したトライアルについて報告を行った。

#### **5. プレー時間の増加/時間の浪費の削減**

年次総会出席者は、プレーが中断することは試合の一部であると共に競技者にリカバリーの時間を与えるという事実があることに留意しつつも、プレー時間を増やし、時間の空費を減らすことの重要性について話し合った。

FIFA が、FIFA ワールドカップ 2022™において、アディショナルタイムをより厳密かつ精緻に計測することに成功したと報告した。第 7 条—試合時間を改正し、得点の喜びで空費された時間を考慮することの重要性を強調した。

年次総会出席者は、アディショナルタイムの算出に対してより厳格に対応することにより、すべての大会で一貫性をもって、またかなりのプレー時間を確保することになることから、世界中の競技会で採用されるべきであることに同意した。

## **6. 審判員、競技者そしてチーム役員へのリスペクト**

年次総会出席者は、引き続き競技者の行動に焦点を当て、審判員や他の参加者がよりリスペクトをもって接せられる方法を模索することに同意した。また、これについて、すべてのレベルの試合のステークホルダーからなるワーキンググループを立ち上げるという ABM(年次ビジネス会議)の勧告を承認した。

The FA(イングランドサッカー協会)が IFAB の承認を得て、グラスルーツのサッカーで主審がボディカメラを付けて不適切な行動を記録するというトライアルを立ち上げると報告した。

## **7. 意思決定プロセスと競技規則の適用**

年次総会では、FIFA 憲章は大陸連盟と各国協会に対して試合が確実に競技規則に則ってプレーされることについて求めていることを確認した。

IFAB の事前の合意なしに、競技規則に反映(VAR 実施手順を含む)するトライアルに関する試合を開催することは、認められない。

詳細は近く公開されるが、そこには、競技規則に反映する可能性のあるテストまたはトライアルについての承認申請手続きが記載されている。

## **8. その他の事項**

年次総会出席者は、2024 年予算、IFAB 定款の変更またサッカーおよび技術諮問委員会(FAP-TAP)の構成について承認した。その他、オフサイドの新しいアプローチのトライアルについて報告され、スローインをキックインに置き換える提案は審議していかないことについても合意された。

IFAB は、サッカー界のすべてのエリアからのサポートや多くの提案を深く歓迎する。それによって競技規則が進化しつづけ、サッカーがグラスルーツから国際レベルまで、よりフェアで、より身近で、より楽しめるようになる。

また、引き続き、世界中からのご意見をいただくようにしていきたい。それによって、競技規則が競技のフィールドにおけるフェアさやインテグリティを促進し、保証し続けることになる。みなさま方のご協力に感謝する。何か疑義、質問があれば、ご連絡いただきたい。

以上

国際サッカー評議会  
事務局長 ルーカス・ブラッド

[添付]

添付 1 : 2023/24 サッカー競技規則変更の概要と詳細

添付 2 : 2023/24 サッカー競技規則の適用開始日